

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.12

ドクダミ

「ドクダミ」。いかにも毒々しい、怪しげな名前。ところが、この植物自体は、「毒」があるどころか、まったく「毒」はなく、あるのは、怪しげな「臭い」だけです。では、なぜ「ドクダミ」というのでしょうか？それは、いろいろな「毒」や「痛み」を取り除いてくれるからです。そうです、彼らは、立派な薬草です。

ところが、あの独特な「臭い」とたくましさすぎる「繁殖力」で、多くの場合、嫌われがちです。所かまわず生育し取っても取っても、すぐ復活します。それもそのはず、彼らは「地下茎」で繁殖するのです。

さて、このように強い繁殖力を持ち、いろいろな薬効も認められる「草」のおしゃれな呼び名を知っていますか？それは、「ハーブ」です。「ハーブティー」などと言われると、しゃれた感じがしますが、実は、「ハーブ」は大変繁殖力の強い、たくましい植物たちです。皆さんの身近にもハーブはあります。例えば、「パセリ」。レストランで、付け合わせとして出される感が強いですが、これも立派な「ハーブ」です。香りをつけたり、においを消したりする効用があります。この、一見弱々しい「パセリ」でも、地面に植えれば、これが「パセリ！？」と思うほどの、背の高さ、繁殖力を示します。（我が家の庭で育てているのですから間違いありません！）

余談ですが、この時期、「パセリ」には、「アゲハ蝶」が卵を産みに来ます。それも、むやみやたらと、です。皆さんは、蝶は警戒心が強く、人を見ればすぐ逃げる、と思うかもしれませんが、卵を産むときには、人など眼中にありません。とにかく産んで産んで産みまくります！その結果、たくさんの幼虫がムシャムシャ、小気味いいほどの食べっぷりで、葉を食べます。それでも、たいていの場合、「パセリ」も負けずにどんどん、育ちます。ところが、そのバランスが崩れると……。この続きが知りたい人は、国語科の先生に聞いてください！）

もう一つ、おまけです。「地下茎」で増える植物は他にもあります。ほら、白井中の周りにも……。そうです。「竹」です。「竹」の繁殖力は言わずもがな（どんな意味だろう？ ア 言わない。イ 言うまでもない。ウ 言うほどでもない。 正解はイ。）

皆さんご存じの通り。さて、「竹」は、「地下茎」でつながっているのです、一斉に「花」を咲かせたら、一斉に枯れてしまいます。その周期は、まだ解明されていませんが、例えば「マダケ」の場合、120年周期で開花するといわれています。前回1960～70年頃、一斉に開花し、一斉に枯れたことが記録されています。もし、120年周期が正しければ、次にこの現象が見られるのは、2080～90年頃です。皆さんなら、確かめられますね！どうぞ、覚えていて、確かめてみてください！未来にも、わくわくが止まりません！

